

第 3 調查研究

第3 調査研究

1 厚生労働省多目的コホート研究

(1) 事業概要

厚生労働省の研究事業で生活習慣病に関するコホート研究を全国 12 ヶ所で実施している。対象地区は具志川市と恩納村で平成元年 12 月 31 日に在住していた昭和 5 年から昭和 24 年生まれの方を対象に平成 2 年度からスタートした。

(2) 対象者の状況

ア 転出、再転入について

平成 21 年の転出は計 35 名、累積で 3,459 名であった。再転入は計 29 名、累積で 876 名であった。

イ 死亡について

平成 21 年の総死亡数は 111 名であった。死因別には、がん 52 名、脳卒中 11 名、心筋梗塞 18 名であった。20 年間の累積死亡 1,069 名中がんによるもの 684 名、脳卒中によるもの 186 名、心筋梗塞によるもの 199 名であった。対象者のこれらの割合は約 58.6%となっている。

ウ 平成 21 年までのがん罹患確認累計で 1,676 名 I D 比（罹患／死亡）は 2.45（1,676/684）であった。臓器別では、大腸がんが最も多く（384 名）、肺がん（207 名）、胃がん（179 名）、乳がん（155 名）の順であった。

年次推移を見ると、がんは平成 2 年 38 名に対し、平成 21 年 108 名と約 2.8 倍になっている。

エ 協力医療機関別疾病登録状況

14 医療機関中、出張採録をしている県立中部病院、中頭病院からの登録が全数の 87.6%を占めている。死亡票からの登録は 4.8%、沖縄県地域登録（沖縄県がん登録事業、脳卒中情報システム事業）から 8.4%が登録されている。

(3) 公開講座

ア 日 時：平成 21 年 7 月 30 日（木）

イ 場 所：ちゃたんニライセンター（カナイホール）

ウ 参加者：参加者 102 人

エ 内 容：

（ア）これまでのコホート研究の成果と今後について

講師：国立がんセンターがん予防・検診研究センター
予防研究部 部長 津金昌一郎

（イ）循環器病の予防について—我が国における研究成果より

講師：国立循環器病センター予防検診部 医長 小久保喜弘

2 結核対策特別促進事業

別紙様式1

事業実績書(H21年度)

都道府県(市・区)名: 沖縄県中部保健所

1. 事業名	地域DOTS協力者育成事業 一関係機関とのネットワークづくり								
2. 事業の目的	<p>1) 背景</p> <p>中部保健所では平成15年から服薬中断が予測されるハイリスク者へ地域DOTS事業を実施している。さらに、平成16年からは服薬中の全患者に対しコホート検討会を実施している。結核患者の入院期間が短縮され、地域での患者服薬支援がより重要となってきている。また、高齢者や合併症を持つ患者が増加し、主治医や他関係機関と密に連絡をしながら服薬支援を進める体制が必要になっている。そのため、対象者に応じた支援体制を地域に整備していくことが重要と考える。</p> <p>2) 目的</p> <p>結核患者の治療脱落中断を防止するための地域DOTSを継続できる体制をつくる。</p> <p>1 患者に応じた地域DOTSメニューの実施により、治療を完了させる。</p> <p>2 関係機関との連携を図り、地域DOTSにおけるそれぞれの役割を明確化し地域DOTSを推進する。</p> <p>3 地域服薬支援体制の整備のため地域DOTS協力者育成をする。</p>								
3. 事業実施対象地域の概要 罹患率、有病率等		14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	
	新登録者数	99	96	104	114	100	94	94	
	全結核罹患率	(25.8) 22.0	(24.8) 24.4	(23.3) 24.9	(22.2) 22.8	(20.6) 20.8	(19.8) 18.4	(19.4) 20.1	
	全結核有病率	(25.4) 18.4	(23.3) 19.1	(21.1) 18.2	(18.8) 14.8	(17.2) 14.3	(16.2) 13.8	(15.7) 15.3	
	平均肺結核入院期間(月)	(5.2) 4.8	(4.8) 6.4	(4.5) 4.6	(3.9) 3.3	(4.1) 3.3	(4.1) 3.3	(69.7) 45.0	H20年は日数
	平均全結核治療期間	(11.8) 10.4	(11.3) 9.5	(10.9) 8.6	(10.2) 7.3	(10.1) 8.1	(9.7) 8.0	(265.4) 266.0	H20年は日数
	新登録者の30～59歳の率	(31.4) 34.3	(30.6) 38.5	(26.7) 31.7	(26.8) 28.9	(25.9) 21.0	(28.8) 26.6	(23.8) 24.5	
	新登録者の60歳以上の率	(58.4) 50.5	(59.2) 59.4	(64.7) 64.4	(65.2) 66.7	(66.3) 70.0	(62.5) 69.1	(72.2) 73.4	
	* 治療成功率	(79.1) 85.3	(78.7) 79.3	(79.2) 83.8	(77.6) 74.3	(77.4) 79.3	(44.2) 36.7	(43.6) 55.6	
	* 治療脱落失敗中断率	(7.9) 0.0	(7.3) 6.9	(6.0) 3.2	(5.8) 8.6	(5.4) 3.4	(7.4) 7.7	(7.0) 0.0	
	年 末 病状不明者	(17.8) 11.1	(16.8) 13.9	(17.0) 2.1	(12.6) 9.6	(11.7) 3.5	(14.4) 2.0	(14.5) 2.0	
	*喀痰塗抹陽性初回治療コホート ()内は全国平均								
4. 実施期間	平成21年4月1日～22年3月31日								
5. 実施時期	平成21年4月1日～22年3月31日								
6. 実施対象者及びその規模	<p>1 中部保健所管内における服薬中の全患者(約154人)</p> <p>2 関係機関</p> <p>3 地域DOTS支援者: 病院病棟・外来看護師、訪問看護師、市町村保健師、在宅介護支援センター職員、ヘルパー、デイサービス職員、老人保健施設・老人介護施設職員、薬剤師会、結核予防婦人会</p>								
7. 事業内容	<p>1 地域DOTSの実施</p> <p>1) 所内コホート検討会の開催(11回)</p> <p>①訪問DOTS支援検討 検討実人員 2人 検討延べ人数 4人</p> <p>②連絡確認DOTS検討 検討実人員 160人 検討延べ人数 699人</p> <p>2) 退院調整会議: 随時, 医療機関との調整, DOTS調整 検討実人員 16人</p> <p>2 関係機関との連携</p> <p>1) 地域DOTS評価会議(1回/年): 拠点病院とのDOTS評価 平成22年3月16日(火) 参加者: 沖縄病院スタッフ 15人 保健所職員 6人</p> <p>①管内の結核登録の状況 ②地域DOTS報告 ③確認事項及び意見交換</p> <p>2) 拠点医療機関との連絡会・外来との連携会議(7回)</p> <p>①沖縄県服薬手帳の作成(県として統一した様式)の検討及び運用について</p> <p>②服薬支援計画票や患者面接連絡票の作成と活用について</p> <p>③外来患者事例検討会 4回 ④地域連携パスについて</p> <p>3 地域DOTS協力者育成研修会</p> <p>1) 結核予防婦人会研修 平成21年8月7日(金) 対象: 結核予防婦人会 参加人員 13人</p> <p>①管内における結核の現状と地域DOTS事業のとりくみについて</p> <p>2) 結核予防啓発のチラシ・ポケットティッシュ配布活動 (9月28日結核予防婦人会 34人参加 ・パネル展示及び相談事業 管内大手スーパー 9月28日～30日</p> <p>4 服薬支援関係者の研修会</p> <p>1) 結核研修会 平成22年1月28日(木) 対象者: 医師・看護師・薬剤師・医療関係者 参加人員45人</p> <p>①管内の結核の現状</p> <p>②確実な服薬支援のための患者支援「院内DOTSと地域DOTSとの連携」</p>								
8. 本事業を実施することにより期待される効果	<p>1 患者に応じた地域DOTSメニューの実施により、治療完了させることができる。</p> <p>2 DOTS事業を通して保健所と関係機関の連携の必要性が認識される。</p> <p>3 結核治療完遂という共通目標に向けて、関係者がDOTS体制における担うべきそれぞれの役割を明確にできる</p> <p>4 地域DOTS協力者育成をすることで地域服薬支援体制の一翼を担うことができる。</p>								